

（午前11時15分 再開）

○議長（岡 弘悟君）再開いたします。

順番16、17番 井上君。

〔17番（井上勝彦君）登壇〕

○17番（井上勝彦君）皆さん、こんにちは。

一般質問の3日目、最終バッターとして、ちょうど順番が回ってきましたので、しっかりと質問をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

議長のお許しをいただきましたので、一般質問に入らせていただこうと思っております。

先日来3日間、16名の議員が質問に立たれて、そして、本当に立派な質問がたくさん、市民の代表として出ておりました。やっぱり当局もしっかりと受けとめていただいておりますが、やはり言い放し、聞き放しということにならないように、市民の代表ということで、本当に立派な意見がたくさん出ておまして、私も市民の声というのは大事なもんやなということで、ひしひしと勉強させていただいておった一人でございます。

そういうことで、本当にみんなで橋本市を、まちをよくするという意味において、当局ともけんけんがくがく、やるときはやって、そして、お互い力を合わせてまちをよくしていくと、そういうことをめざしていきたいと思っております。どうかひとつよろしくお願いしますを申し上げます。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

私は、先ほど同僚議員の岡本議員からも最終3番目に出ておりましたが、私の一般質問と同じ内容でございましたので、私に振っていただきまして、しっかりと同僚議員の思い

を、また意見をしっかりと述べていきたいと思っておりますので、答弁のほうはしっかりとよろしくお願い申し上げたいと思います。

それでは、一つ目に、2050年超高齢化社会のコミュニティ構想についてということで、全ての小学校区、元気な高齢者、そして、集いの館、この三つを提言しております。2050年超高齢化社会のコミュニティ構想の柱であります。

これは全国1万5,000の小学校区全てに、元気な高齢者が運営主体となる90坪の集いの館を展開する。集いの館はその月の食べ物と日用医薬品を提供するコンビニ業態の30坪のお店、ワンストップであらゆる暮らしにかかわる相談に応じるよろず相談デスク、ゼロ歳児から百寿者まで老若男女誰でも気軽に立ち寄り、ふれ合い、支え支えられ、のんびりと過ごすことのできるフリースペース60坪で構成されます。

集いの館は、血縁ではなく地域の結縁で生まれる地域、家族の家であり、プラットフォームでもあります。元気な高齢者がチームを組んでお店を運営し、あらゆる暮らしの相談に応じ、日常生活上でサポートを必要とする高齢者、子育てファミリー、幼児・学童を支える、それが集いの館のビジネスモデルと組織モデルの核心であると。NPO法人高齢社会をよくする女性の会理事長、樋口恵子先生の提言を引用させていただきました。

私はこの中の、和歌山県の高齢者生活協同組合の一員でもありますので、そういうことで一応勉強させていただいたわけですが、それについて、すばらしい提言であるということでもありますので、それに基づいて、橋本市に当てはまることはないかということ

で質問させていただいております。

それでは、一つ目に、集いの館のプランが地域住民の暮らし全般を支えるものである以上、法律上の関係もありますけれども、国はもちろんのこと、地元の自治体、橋本市の理解と、要するに法整備が必要となりますが、公的セクターと民間セクターが一体となつて、地域の持つ資源を余すことなく活用することで、初めて集いの館は力を発揮する。総力戦が必要となります。

そのことについて、本市の考えはいかがでございませうか。

二つ目には、本市の小学校区につくるということになれば、何箇所になりますか。

三つめは、本市の人口減少予測として、どれくらいになりますか。三つ目については、先ほど答弁をいただいておりますので、中身については大ざっぱで結構でございます。

それから、四つめは、そこで今後、本市の超高齢化社会のこれからの取り組みということと考え方をお聞きいたします。

壇上での質問はこれぐらいで、また質問席からお聞きいたします。

○議長（岡 弘悟君） 17番 井上君の質問、2050年超高齢社会のコミュニティ構想に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（吉田健司君）登壇〕

○健康福祉部長（吉田健司君） 2050年超高齢社会のコミュニティ構想についてお答えします。

議員お示しのこの構想によりますと、全ての小学校区で、元気な高齢者により、集いの館を運営することが柱となっています。この集いの館は、食料品や日用医薬品を販売するお店、あらゆる暮らしの相談に応じるよろず相談デスク、そして、誰でも立ち寄ることができるフリースペースで構成するとされてい

ます。

現在、本市では日常生活圏域ごとに地域情報共有の場である第2層協議体を設立し、助け合いのまちづくりを進めています。集いの館構想では、小学校区を単位としていますが、本市ではほぼ公民館単位の10圏域を単位としており、8月現在、7圏域で第2層協議体が設立されています。

この第2層協議体では、井戸端会議のような情報共有が行われ、地域のニーズを把握し、具体的な助け合い活動が生まれるよう議論を重ねていきます。この具体的な助け合い活動として、よく話が出るのが集いの場であり、子どもから高齢者まで誰でも集える場にするのが理想と考えています。これは、集いの館のフリースペースと全く同じ考え方です。

この集いの場に、お店やよろず相談デスク機能を入れるかどうかはそれぞれの地域で検討するものと考えています。また、この活動の中心となるのが元気な高齢者であり、この点も構想と同じ視点となっています。

このように、少子高齢化が進む中、本市としましても、地域も皆さまとともに総力を挙げて、市民みんなが暮らしやすいまちとなるよう取り組んでまいります。

総合政策部長。

〔総合政策部長（上田力也君）登壇〕

○総合政策部長（上田力也君） 次に、本市の小学校区に集いの館をつくるとした場合の箇所数についてお答えします。

現在、小学校は15校ありますので、全てに設置すれば15箇所となります。

次に、本市の人口減少の予測についてお答えします。

2015年に策定した「橋本市人口ビジョン」における将来人口は、年々減少し続け、2050年には4万747人になると推計しており、その内訳は、0歳から14歳の年少人口を3,527人、

15歳から64歳の生産年齢人口を2万303人、65歳以上の高齢人口を1万6,917人としています。なお、その時点での高齢化率は約41.5%になると考えられています。

最後に、超高齢化社会を迎える本市の今後の取り組みについてお答えします。

人口減少と少子高齢化が進んだ超高齢化社会では、少子化による保育・教育環境の縮小、高齢者介護の問題、サービス業の撤退や労働力不足などによる地域経済の縮小、空き店舗、工場跡地や空き家の増加と、それに伴う防犯上の問題の発生、税収の減少と高齢化が進むことによる社会保障費の増加などによる財政状況の悪化、加えて、地域公共交通の縮小、耕作放棄地の増加など、地域の魅力が低下するさまざまな影響が懸念されます。

さらに、地域の担い手不足による地域活動の縮小や交流の機会が減少することで、地域コミュニティの機能も低下するおそれがあります。

このような状況が想定される中で、私たちの生活に与える影響を少しでも軽減させるために、個々の課題に向き合い取り組むのはもちろんですが、今後の地域コミュニティに関しては、これからのまちづくりの基本的な理念としている、「住み慣れた地域で、子どもから高齢者まで、地域全体で支え合いながら、安心、安全な生活をおくれるまち」をめざし、市民と行政の協働で、地域を主体としたまちづくりが必要であると考えています。

議員が紹介された、小学校区単位に、元気な高齢者が運営主体となり、地域住民の日々の暮らしを支える集いの館を展開することも、地域課題解消の一つの方策であると考えますので、参考にさせていただきながら、市としてはまず、市民が自主的に地域課題に取り組める環境づくりと、そのために必要な支援の方策を検討してまいりますので、議員のご協

力をお願いいたします。

○議長（岡 弘悟君）17番 井上君、再質問ありますか。

17番 井上君。

○17番（井上勝彦君）ご答弁ありがとうございます。

健康福祉部長に再質問させていただきます。

今、これいただいてあるんですけども、橋本市もこういった、私たちの考え、私たちというか、私は民間レベルでこれやったものを今、公表させていただいているんですけども、橋本市で地域のお茶会とか井戸端会議、そういったものを、まずはじめにそういうところから入っていかな、地域コミュニティというのはなかなかできやんということで、取り組んでいただいております。

第2層というんですか、そういったもので取り組んでいただいておりますけれども、今これ、7箇所か8箇所あるわけなんですけれども、その中身についてちょっと、わかる範囲で、どういうふうなことをやっておるかということがわかれば、ちょっとご説明願えますか。

○議長（岡 弘悟君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）お答えします。

私も去年から本格的にこの会議に入らせていただいたんですけども、まず、第1層協議体というのができ上がっております。たすけ愛はしもとということで、それができ上がって、その後、第2層協議体の設立に入りました。

当初、9地区でしたけれども、紀見地区を2箇所に割りまして10地区となっています。答弁にもありましたように、今、そのうち7地区が設立されています。この設立された後ですけども、そのメンバーの中からコーディネーターを選んでいただいて、そのコーディネーターと市の職員も入って、中心となって、

まずは地区のアンケート調査等を行って、その地区地区で困っていること、困りごとというのがやっぱり違いますので、その集計をとって、具体的にそれでは地区でどういうことをやっていくか、どういう困りごとがあるか、それでは地区でサロンなりそういうのをつくっていくかいかないかというのを具体的に決めていくというのが、これからやっていく形になると思います。

簡単にいえば、そういうことになります。以上です。

○議長（岡 弘悟君）17番 井上君。

○17番（井上勝彦君）今、健康福祉部が展開されておりますことについては、非常にいいことであると。橋本市が先進的にそういった取り組みを行われているということについては私も評価させていただきます。

しかし、私が提言させていただいておりますのは、そういったコミュニティ構想の中で、これからは、2050年という長いテーマのように思いますけども、2050年といっても、要するに、今、30歳、35歳の若者がもうそのときになったら高齢者になるわけです。

ですから、今からそういう地域コミュニティバスのそういった形成をきちんとやっぱり考えていく必要があると違うかなということ、もう実践的に取り組んでいかないかと。

そんな中で、私、今、2050年のコミュニティ構想というのを配らせていただきましたけれども、これを見ていただいたら簡単によくわかると思うんですけども、これ全国的に1万5,000件ということを書いてあるんですが、これは全国レベルの箇所です。1万5,000箇所。

その集いの館というのは、今、橋本市が、今、部長がおっしゃったように、地域に応じて、その地域地域にそれぞれの考え方というんですか、地域の取り組み、先ほども岡本議

員からおっしゃってございましたけども、お年寄りが多い地区と、それから子どもが多い地区、あるいは若い青年が多い地区と、地区地区においてそれぞれ違うと思うんですけども、そういったものを踏まえながら、要するに、市町村が主体になるのではなくて、例えばNPO法人とか、社会福祉法人、それから地元の自治会、そういったものが要するに中心になって、そして、その中で医療も福祉も、あるいはそういった、ほかに、地元の人が、家族ということではなくて、地域の地域の人が必要に家族であるという、そういう考え方の中で、要するに、今までの市町村の自治体が主体を持ってやるのではなくて、地域の方々が主体を持ってやっていくと。社会構造を変えていく一つの土台づくりにこれからしていかなあかんと違うかと。

というのは、もう恐らくあなた方、行政におられる方はもうやっぱり、要するにその時分になったら、今の人数というか職員というのはほとんど半分ぐらいになってしまうと思います。職員自身も。そういうことで、全体的なやっぱり社会構造を変えていって、それを変えていくためには、やっぱり今から超高齢化社会に対するそういったものをみんなで考えていって、地域地域でやっぱりそういった社会をつくり上げていくというんですか、そういうものをめざしていくことが大事と違うかなということ、要するに質問させていただいております。

大きな意味ではありますけれども、今からやっぱりそういうところで、そういう館を中心にして、そして、いわば、先ほども質問に出ておりましたけども、災害時のときの助け合いとかそういったものも含めて、子育て支援も含めて、その館で相談に乗れる、そういう法人であるのかどこかわかりませんが、そういった民間レベルで、きちんとした

ものを、やっぱり相談に乗ってもらえるような館をつくり上げていくと。それが各小学校区でつくっていくのが大事ちゃうかということをおっしゃっていただいております。

そういうことで、わかりやすく一つの絵にして示させていただいておりますけれども、そういうことで、今、部長がおっしゃっていただいた、今、橋本市で取り組んでいただいておりますが、その中でもそういったものを、今、私が言っているようなものに取り組んでいける、そういう要素というんですか、そういったものをつくり上げていくことになっていけるのかどうかということをお聞きいたします。

○議長（岡 弘悟君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）もう既にそういう形をとりつつあると私は思っております。

先ほど申しましたように、7つの協議体がもうできておまして、その中の生活支援コーディネーターというのを選んでいただいておりますけれども、それは市民の方から選んでいただいております。

今は橋本市の職員も入っておりますけれども、将来的にはそのコーディネーターが中心となって会議も開いていきますし、どういうふうな形の地域をめざすかということも、そのコーディネーターを中心に、第2層協議体の中で解決というか決定していただけたらと思っております。当分は市の職員が入っていきますけれども。

その中で、議員もおっしゃったように、既にもう今、地域で活動しております方とか、いろいろな方がその中にも入っております。今後もそのコーディネーターが中心でやっていく中でも、どういう方を入れていくかというのはこれからもまたどんどん増えていく形になりますし、その中にも当然、今、地域にありますNPO法人とかそういう方の意見も

聞きたいということやったら、そういう方もどんどんどんどん入れていくという形の要項もつくってありますので、そういうことになれば、議員おっしゃったような形の協議体というか、どんどん膨れ上がって行って、市民中心の意見というのでも出てくる。その意見を取り入れて、市もそれに対していろいろな事業を行っていく形になっていくと思います。

○議長（岡 弘悟君）17番 井上君。

○17番（井上勝彦君）一つ目の健康福祉部については、あと、企画の部長にお聞きいたします。

この1、2、3、4、一緒くたになるけども、一応、総合的に、総合企画ですので、企画として、橋本市として。今、健康福祉部はそういう形で進めていただいております。市として、市の企画部として、これからの超高齢化社会に向けたコミュニティ構想、これは名前は館になるのか憩いの場になるのか、名前はどうかやないんやけど、中身として、これからの橋本市がめざしていく、もう目の先に見えていますから、2050年というのは。

今の若い人、私たちが私たちの世代で取り組んでいかなあかん、元気な高齢者が取り組んでいかなあかん、今すぐでも取り組んでいかなあかんという、もうそういう時代というんか、若い世代に残していかなあかんという、そういう考えのもとで質問させていただいておりますけれども、企画として、橋本市全体の中での考え方として、どのような考えを持っておるかというのをちょっとお聞かせ願えますか。

今、答弁の中では、私が出しておりますコミュニティ構想というのは非常にいいことであるので、それを一つの参考にさせていただきたいという答弁がありましたけれども、防災とか防犯、これも含めて、企画部として、高齢化社会のコミュニティ構想なんやけど、

福祉だけではなくて、全体として、組織として、例えば子どもやったら教育委員会、あるいは、防災、消防とかあらゆる橋本市全体の中での分野というのがそれぞれあると思うんです。そういう連携も、どういうふうな形で連携を持って、これからそれを各地域へ指導していくのか。指導していくための指針というんですか、そういったものは、もし考えをお持ちであればお聞かせ願いたいと思います。

○議長（岡 弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）まず、総合政策、企画として、市全体の中の基本的な考え方なんですけれども、やっぱり橋本市もかなり広いということで、やはりそれぞれの地域によって、いろいろ事情であり課題についてもいろいろ異なるという、そういう状況の中で、ちょっと壇上でも申し上げましたとおり、やはり自分たちが住み慣れた地域で、やっぱり子どもから高齢者まで幅広い年代で、地域全体でつなぎ合い、支え合う、そういうようなまちづくりというのが、やっぱり安心・安全な、そういうまちを生むということになってくるというふうに考えております。また、それがうちの基本的な理念というところでございます。

では、具体的にどういうふうに進めていくのかということで、今回、議員のほうからご提案といいますか、こういう例を示していただきました。本市においては、先行して本市の健康福祉部いきいき長寿課のほうで、たすけ愛はしもとという、そういう活動をしていただいております。

実は、これは介護予防というところから始まっているんですけれども、実は、この活動については、この活動を始める最初の段階において、企画のほうも一緒に入って、この取り組みと一緒にやっていっているというような状況でございます。

高齢者、介護予防というのが切り口なんですけれども、今はどちらかというと、先ほど健康福祉部長の答弁にもありましたとおり、やや高齢者を中心に展開しているんですけれども、今後はやはり、子どもというのを、これを巻き込んでいく。あるいは、ちょっと違う視点で防災であるとか防犯であるとか、こちらの資料にもありますような困りごと支援であるとか、そういった分野をこれからその協議体の中で広げていくようなことになると思います。

ということは、これは市民生活全般にかかわるということになってきますので、当然のことながら、先ほどおただしありましたとおり、保育、それから教育、それから防災であるとか、あるいは耕作放棄地の解消ということもあるので、経済であるとか、あるいは安全・安心ということで建設であるとか、危機管理もそうなんですけれども、総合的な、そういう視点でこういう取り組みを行っていくという、行っていかなければ、なかなか効率的なこういうまちづくりができていくことは難しいというふうに考えておまして、まさしくこれは市としての総合力、ここが試されているというふうに考えているところでございます。

それから、指針という話も出てきましたけれども、一つの旗印として、明日ご審議いただく橋本市の自治と協働をはぐくむ条例という、これを提案しているわけでございますけれども、これが可決されれば、これにも地域づくりであるとか、あるいは民間、非営利組織の定義であるとか、地域運営協議会であるとか、そういった定義もしておりますので、こういったものを旗印に、今後、必要な支援等についても詰めていきたいというふうに考えております。

○議長（岡 弘悟君）17番 井上君。

○17番（井上勝彦君）なかなか総合政策部長の考え方も立派だし、その一つですけども、部長、ちょっと、私、一例なんですけど、今、田辺市でそういった地域づくり、人づくりということで、秋津野というところをご存じですか、田辺市の。そこで、そういう、だんだんと人が減ってくるので、市がお金を出さず、民間がお金を集めて、そして、成功例、全国でも今、有名になっておると思うんですけど、ご存じやと思いますけど、講師、その先生にこちらへ来てもらうて、私たち民間でフォーラムを持とうと思う。

今度、市長も出席してもらおうと思うんですけど、お願いに行こうと思うんですけど、お願いってお金を出してくれというんじゃないんですけど、時間があれば、三役のどなたでも来てもらうたらええと思うんですけど、フォーラムを持とうと思うんですけど、その玉井先生というのは、非常に秋津野で成功した例ですねやけど、それが、私らも今度行くんですけど、その先生のやっていることは和歌山県でももう有名になっているし、全国でも有名になっておるんです。

秋津野へ行ってもらうて、それは農業の関係なので、こちらに当てはまるかどうかはわかりません。しかし、そういうのを、一つの成功例を、それを商業に当てはまるかどこに当てはまるかわかりませんが、そういうこともあるわけでありませう。

それが一つ、私の提案ということじゃないんですけど、一例やけど、なるかならんかわからんやけども、例えば、信太小学校が廃校になりますね。そうしたら、あそこは立派な建物で、要するに、あまりよその事業者に貸さんと、やっぱり地元で社会福祉法人、NPO法人、そういう人たちの地域で取り組んでいく。

区が7区あんねん。例えばの話やで。7つ

の区が一緒になって、やっぱり何かやりたいな、何か地元で取り組んでいきたいなというお話もちよこちよことあるんです。

そういうことも含めて、一遍そういうのを提供すると。館というのはそれを一つ提供して、その中身はやっぱり地域で考えてもらおう。そういうようなことで、いろいろ商工も入ってもらい、いろいろな福祉部門も入ってもらい、医療関係も、そういうのを一つ一つ作り上げていくというんですか、そういうのをやってみてはどうかというのが提案でございます。

そういうことで、今度、私たちも12月ぐらいに、そういった、新たな基盤整備プロジェクトチームというんですか、そんなチームをつくって、市のほうへご提案していこうと思っています。そういうことで、中身はどうかかわかりませんが、防災も含め、もちろん、うまいこといったら自衛隊も来てもらうて、みんなでそういう、防災についてはどんなかなとかという取り組みをしていくためのフォーラム、勉強会というものを地域で持ちたいということで思っております。

そういうことで、全く行政ばかりに頼るというのではなくて、今、私が言いました、市町村との連携というのは、市町村も入ってもらって、そして、地域地域でやっぱりこれからの超高齢化社会のまちづくりをどうしていくかということ、やっぱり地域の中で考えて取り組んでいくと。人任せじゃなくみんなで取り組んでいくという、そういうコミュニティ構想そのものを実現に向かってやっていけたらなということでありませう。

そういうことでありますので、市長もこの間から何回か、行政報告会の中でも、やっぱりこういう高齢化社会についてのこれからの構想というのがお話を聞いておりますけども、私と同じ考え、考え方は一緒やと思う。全く

同じ考え方を持っているなということでも私も思っておるわけなんですけども、時間もありませんけども、一応、市長に、この間から話をしている、私が今、ご提案させていただいたものも含めて、今後のコミュニティ構想についてのお考えをお聞きできたらと思いますので、ひとつよろしくをお願いします。

○議長（岡 弘悟君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）井上議員の質問にお答えします。

今、既に私は取り組んでいると思っておりますので、そういう考えのもとに進めています。なぜそういう考え方をしなければならなくなってきたかという、やはり右肩上がりの時代から右肩下がりの時代になった行政をどう対応していくのか。当然、職員の数も減らしていかなければなりませんし、地域のマンパワーもどんどんどんどん減っていく。

その中で、もう行政だけでできることというのは限られてきます。まして、福祉政策一つとっても、やはり同じ政策をやるということではできませんし、やはり地域の状況に応じたきめ細かい対応というのは一方で大事になってきます。

職員も減ってくるので、どうやってやるんよと言われると、やっぱり地域の皆さんであったり議会の皆さんであったり、NPO、ボランティアの人であったり、そういう人たちといかに協働していくことが大事かなというふうに思っています。

私の考え方として、いきなりほんと大きなものを立ち上げて、この中でやっていこうとすれば、必ずうまくいかない。今、私が進めているのは、子どもの子育て支援については教育福祉連携推進室を中心とした、そして、来年からはハートブリッジを中心とした子育て支援、あるいは学習支援を、教育委員会と

福祉部局、市長部局も一緒ですけども、そこをよりよいものにしていくという、これは、今は積み上げていっている状況です。

また、一方で、高齢化支援というのもやっていっています。介護予防という形で最初入りました。ふるさと財団にも協力をしていただきながら、これからの高齢化社会に向けてどういう対応をしていくか。そして、ふるさと財団にも協力していただいて、第1層の支援協議体、今、第2層。私の理想は、これを第3層まで行って、地域の中でまずそういう取り組みというのをしていければいいなというふうに思っています。

その中でやはり、もう私だけでは絶対無理です。議員からいくらいい提案をいただいても、じゃ、それできるかという、やはり地域の中へしっかりと落としさせていただいて、地域の中で議論をしていただく。例えば、その中に議員が入っていただいて、行政も入って、いろんな議論をしていただけたらいいなというふうに思っています。

ただ、本当に各地区ばらばらの構成の中で、どういうふうにしていくのか。教育委員会が今やっているコミュニティスクールというのも、実際は小学校単位で学校運営協議会をつくって、その地域の人たちに学校運営に協力していただく。あるいは、共育コミュニティにしても、公民館単位の中で、地区でそういうふうな人材を生かしてもらって、地域との連携を深めていくというふうな取り組みもしてもらっています。

私は、コミュニティスクールが進んでいくのであれば、小学校単位では十分対応していけるのかなというふうには思っています。井上議員のおっしゃるとおり、まさにそのとおりなので、いずれはその中で、地域のマンパワーがないところに関しては、NPOであったり他の企業であったり、そういう人たちに

も協力をさせていただくようなまちづくりというのは必要ではないかなというふうに思っています。

ただ、なかなかまだまだ、こういうことは行政がするものやという市民の方もたくさんおられます。それをいかに協力してもらえようように持っていくために、そういう、まず、高齢者の場合は支援協議体をつくってもらったり、カフェをやってもらったり、げんきらり～体操をやってもらったり、地域の中で敬老会をやってもらったり、そういう、まず、地域での人間同士の助け合いが、先ほどから出ています防災、さっきも避難計画の話が出ていましたけども、それは自然とでき上がってくるものやと思っています。それが本当に、簡単にいえば、地域の結びつきが深くなればなるほど、誰が支援に行くとか決めなくても、その地域の中で支援をさせていただくという形ができてくるのかなというふうに思います。

その一環で、明日、提案をしています条例もありますけども、私は決して、これからは市民も議会の皆さんも行政も、いかに協力をしながら、その地域に合ったまちづくり、そして予算配分をしていくのか。このまま行けば、50年先になったら、この財政規模が半分になっておるのかなという気もしながら、逆に、借金返していけるんかなという、逆にそういう不安を持ちながら、今、できるだけ皆さんの力を借りて、一緒にこのまちづくりをしていくという転換期かなというふうに思っています。

昔の旧自治基本条例ではなくて、本当に皆さんの力を借りて、まちづくり、また、地域を、地区を元気にしていく取り組みでもうできへのちやうかなという、非常に危機感を覚えています。

その中で、僕は、一つずつ積み上げていくことが大事で、いきなり大きなものをぼんと

つくってもうまくいかないだろう。まして、大きなものをつくってしまえば、人材がいなかろう。その中で、ちょっと時間はかかりますけど、地域の皆さんにいろいろ協力してもらって、人材もつくりながら、いい高齢化社会、コミュニティが、橋本市が一番やと言われるような、そういう地域コミュニティをつくっていきたいと思っています。

考えていることはほとんど、ほぼ一緒です。これが恐らくこれからの少子高齢化時代に向けた取り組みということになってくると思います。そういう中で、今後もそういう地域コミュニティづくりについては、議会の皆さまにもご協力をいただき、市民の皆さんにも協力をいただき、行政もしっかりついていくということが一番のベストかなというふうに思っておりますので、ぜひご協力をお願いします。

○議長（岡 弘悟君）17番 井上君。

○17番（井上勝彦君）市長のお考えをよくわかりました。私と同じ、全く同じ考えでございます。

市長のおっしゃったように、最後に、人材をつくっていく、人材育成、昨日も同僚議員がやっていたけども、まずこれをやっていくためには、社会構造を変えていくためには、やっぱりソフト面で人材育成というのは、市長、大事やと思いますので、今言っていたので、そういったいろいろな方、地域で取り組んでいこうと思えば、やっぱり高齢者といえども元気な高齢者だけではなかなかいかなので、やっぱりそこにはいろいろな人材、若者も入っていただいて、例えば伊都中央高校の方なんかでも、今もう社会勉強のためにいくつかのところへ、公民館とかへ来ていただいておりますけど、なかなか立派な若者がぎょうさんやっぱりおると、おってくれるなということで、僕も勉強させてもらう

てますけども、そういう高齢者と子どもと一緒にあって、そしてまた、そういう経験をすることによって、社会へ参加することによって、福祉の資格を取るかいなと、取ってみよかいなという方もたくさん出てきているという。橋本市はもうそういう人材は育ちつつあるなということもあります。

それは市長の今のやっていることが間違いではないということ、それぞれの地域で、やっぱり小まめにこつこつとやっていることは間違いがない。間違いがないと思うんですけども、やっぱり橋本市も社会構造そのものを変えていかんと具合悪いと。行政だけに頼るということは、もう今の時代ではちょっと無理な話であって、やっぱり昨日からもいろいろな議員の意見や、質問に立っておりますけども、そういうものも含めて質問されておると思いますので、そのところを行政と一体となって取り組んでいきたいなと思っております。

細かいことについては、もうきょうは申しませんけれども、私たち議会も、要するに、

総務委員会もあれば経済建設委員会、それから、文教厚生委員会、そういった各委員会が、細かく委員会に分けておりますので、その中でやっぱりみんな、いいまちづくりをどうしていくかということ、各委員会の中でも、当局も一生懸命、真剣にやっぱり議論をしていただけるようお願いをしたいと思います。

ここでの質問、常任委員会でありますので、そういうことで、議長も含めて、まちづくりのためにやっていただけるように要望いたしまして、私の2050年超高齢化社会のコミュニティ構想についての質問をこれで終わらせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

○議長（岡 弘悟君）17番 井上君の一般質問は終わりました。

○議長（岡 弘悟君）これにて一般質問を終結いたします。

以上で本日の日程は終わりました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

（午後0時4分 散会）